

# 議会

No. 164



自然劇場

## 年頭のご挨拶

木島平村議会議長

尾澤 正 功



新年明けましておめでとうございます。

村民の皆様方におかれましては、ご健勝にて清々しい新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

村民の皆様には、日頃から議会活動に對しまして、深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

振り返りますと昨年は、一昨年の東日本大震災と長野県北部地震からの復興元年としてスタートした、忘れることのできない年でありました。

この地震により発生した原子力発電所の事故は、未曾有の被害をもたらしましたが、これにより原発と節電に対する国民の意識が大きく変換し、国民の協力の下に、夏場の電力不足を乗り切ってきたと言われております。

また、昨年は台風や異常気象による被害が甚大であり、特に九州や近畿地方では軒並み、時間あたりの最大降水量が観測史上、最高を記録しています。幸い、木島平村では大きな自然災害を受けることなく、比較的、平穏な年でありました。

農業の課題として、政府が交渉参加の方針を表明していますTPP（環太平洋経済連携協定）は、例外なき関税撤廃を原則とするものであり、農水省の試算では、農業生産額が4兆1千億円減少し、食料自給率は40%から14%に低下すると言われております。

国内にはなお、慎重論が強い中で、情報の早期な公開と、政府の慎重

な対応を一層求めていきたいと思っております。

本村においては、四月に一園に統合した「おひさま保育園」が開園し、幼年教育の充実と、この村ならではの、小中一貫した教育の構想が創られております。

十一月には、長野県では初めての開催となる「米食味分析鑑定コンクール国際大会」が本村で開催され、開催地にふさわしい、最高の成績を見ることができました。

近年の、美味しい米づくりへの関心の高さと、農作物の安全・安心に對する意識が高まり、これによる村づくりが、未来に向けて展開されるものと実感しております。

5000人を割り込んだ、この村の人口の回復を期して、過疎地域自立アクションプロジェクトが展開されております。

移住・定住を進めるべく、子育て世代を応援する、村営住宅の整備も完成を待つのみとなっております。

議会といたしましても、この計画を着実に実行しながら、村の活性化、過疎からの脱却を図っていく必要があると考えます。

迎えました本年は、空き校舎の再利用による、介護福祉施設の建設と、役場周辺の再整備の本格着手など、重要案件への対応が多い年になります。

私たち議員も、新年を迎え、気持ちを新たに議員一丸となって、議会改革と活性化、住みよい村づくりのために、真剣に取り組んでまいります。村民の皆様の一層のご支援と御協力を心よりお願い申し上げます。

終わりに、平成二十五年が木島平村にとっても、村民の皆様方にとりまして、実り多き良い年となりますようご祈念を申し上げます。新年のご挨拶といたします。

議会に対するご意見をお聞かせください。

お電話の場合

☎82-3111(内線150番)

E-mailの場合

gikai@kijimadaira.jp

発行：木島平村議会

編集：議会だより編集委員会

# 平成24年 第4回(12月)定例会

平成24年第4回木島平村議会定例会（12月議会／11月30日～12月13日）において、下記のとおり可決及び同意しました。

## 条 例 〈可決〉

### ○木島平村暴力団排除条例【制定】

村の安全で平穏な生活の確保を図るため、県と一体となって暴力団を排除するために制定するもの。

### ○木島平村税条例【一部改正】

県の税条例の改正に伴い、県内に事業所、事務所を有する法人等に対して、税額控除の対象となる寄付金の拡大を図るもの。また、国民健康保険の被保険者が、後期高齢者医療制度に移行した場合、被扶養者であった者にかかる保険税の免除期間を改正するもの。

### ○木島平村若者住宅条例【一部改正】

入居期間を、1期2年とし、2期まで更新できるように改正するもの。

### ○木島平村賃貸集合住宅条例【一部改正】

若者移住・定住促進を目的とした賃貸集合住宅（旧やまぶき保育園を改築）について、設置及び管理に必要な事項を定めるため改正するもの。

### ○職員の育児休業等に関する条例【一部改正】

### ○職員の勤務時間及び休暇等に関する条例【一部改正】

## 12月補正予算 〈可決〉

### ○一般会計 補正額合計 2, 194万円増額

#### 《主な増額分》

- ・役場周辺整備測量業務委託料 (155万円)
- ・情報通信会計繰出金 【今年度消費税納付額確定に伴う中間納付金】 (136万円)
- ・衆議院議員選挙費 (446万円)
- ・福祉医療扶助費 (70万円)
- ・地域医療確保事業（歯科医師確保のための）測量業務委託料： (367万円)
- ・遊休荒廃農地活用推進事業 畜舎建設工事・進入路新設工事 (379万円)
- ・農の拠点整備基本構想作成委託料・同施設先進技術試験委託料 (200万円)
- ・農村交流研修センター（仮称）：旧南部小学校床工事費【検討委員会で意見のあった、土足での出入りを可能とするため】(256万円)
- ・給食センター食器、食缶洗浄機及び炊飯器更新費 (543万円) ほか。

#### 《主な減額分》

- ・農業委員選挙費 (270万円)
- ・公債費 【元金、利子の調整】 (961万円) ほか。

### ○特別会計（主な補正）

- ・情報通信施設特別会計： 一般会計からの繰入金。【今年度消費税納付額確定関係。】  
(136万円 増)
- ・国民健康保険特別会計：療養給付費及び高額医療費 (1,064万円 増)
- ・介護保険特別会計：サービス給付費全体の調整 (191万円 増)
- ・下水道特別会計：下水道施設の修繕費及び光熱水費 (237万円 増)  
浄化センター工事関係費及び分譲団地造成に伴う下水管布設費の清算  
(4,957万円 減)

## 【審査意見】

### ◆総務民政文教常任委員会

高齢化が進む中、国民健康保険等の財政の健全化に向けて、村民の健康管理は、より一層重要な施策であるので、多様な啓発活動を図られたい。

### ◆産業建設常任委員会

人口減少に歯止めをかける若者定住の施策にあたり、分譲する宅地の価格は、できるだけ低く設定されたい。

## 事 件

〈可決〉

### ○北信地域定住自立圏形成協定の締結

#### ・協定の内容

基本方針として、圏域医療体制の構築、地域生活の充実、地域公共交通の維持・活性化、圏域内外の交流促進、市町村等の連携協定・人材の育成について、相互の役割を分担して、連携を図り、共同し、または補完することを協定するもの。

#### ※北信地域定住自立圏の範囲

中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村の2市1町3村。  
定住自立圏形成における中心市は、中野市と飯山市。

### ○工事委託に関する協定の一部を変更

- ・契約の目的 村の浄化センターの監視制御施設の更新に係る工事委託を締結した件。
- ・契約の相手方 日本下水道事業団
- ・契約金額 減額 4, 161万円（変更後の総額 1億2, 639万円）

## 人 事

〈同意〉

- 村固定資産評価審査委員会委員に、**清水 洋一**さんを選任することに同意。

## 請願・陳情

〈以下を採択し、国等へ意見書を提出〉

### ○陳情

- ・「国立病院と地域医療の充実」を求める陳情
- ・「安心できる介護保険制度の実現」を求める陳情

## 議会全員協議会での協議事項

### ○議会選出委員について

第三セクター等の抜本的改革の推進に係る検討委員会に、次の議員を選出しました。

- ・村土地開発公社経営改革検討委員会 江田宏子、 小林貴彦
- ・村農業振興公社経営改革検討委員会 尾澤正功、 山崎純男

# 平成24年度 議員研修視察報告

萩原由一 議員

村議会では、11月26日から28日まで、埼玉・静岡方面への研修視察を実施しました。

今回は、役場周辺整備にも関係する、「地震に強い、木造公共施設」を研修のテーマとして、埼玉、静岡の施設を視察しました。

## 埼玉県加須市

### 大利根生涯学習センター

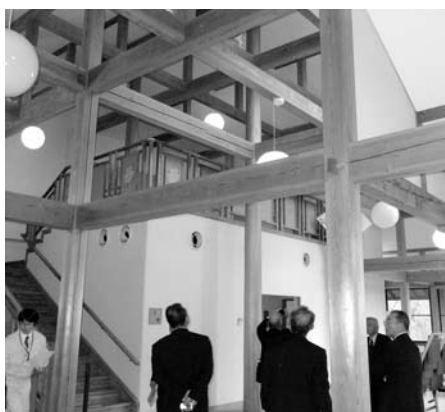
「童謡のふる里おとね アスタホール」

加須市大利根生涯学習センター「童謡のふる里おとねアスタホール」は、「たなばたさま」、「野菊」、「かくれんぼ」などの童謡を数多く作曲した、音楽家「下



童謡のふる里おとねアスタホール【全景】

総統一先生の子生誕百周年記念事業として平成11年に建設された施設です。  
建物の概要は、敷地面積5539㎡、建物面積1501㎡で、田園地帯の風景を構成する屋敷林と、民家をモチーフとした木造瓦葺き平屋づくりで、木の香り豊かな和風建物です。



アスタホール【内部】

建物の内部は、木を主体とした明るく温かみのある自然素材を生かした内部空間になっています。

内部は和室会議室2部屋、椅子席の会議室1部屋があり、間仕切りを取れば100名位の会議でも対応できます。和室1部屋には、炉や水屋が設置されていて、茶会などができるようになっています。



アスタホール【調理実習室】

調理実習室は、調理器具4セットが設置され、調理実習や会食などの調理ができるようになっていきます。

情報コーナーやギャラリーがあり、新聞、雑誌等を自由に閲覧ができた、写真や絵画等が展示されています。

その一角には、市民のくつろぎの場として、囲炉裏コーナーが設けてあります。

また、多目的ホールもあり、285席の客席は電動スライド収納方式で、イベント開催時は、ひな段型の客席になります。加えて、電動収納式の200インチスクリーンや、本格的な音響設備、照明設備、それらをコントロールする操作室などがあります。なお、客席を壁面収納すれば、軽度な運動ができるスペースにもなります。舞台の背面は、カーテンで覆われていて、開けると全面ガラス張りの田園風景が見えるようになっていきます。



アスタホール【囲炉裏コーナー周辺】



アスタホール【多目的ホール】と電動収納席



建築費は外構工事と合わせて、約3億7千万円。年間の維持費は、平成23年度が、1千3百万円程で、スタッフは館長以下7名。  
地盤の悪い場所に建てられたこの施設は、特に耐震工事が施されており、一昨年の東日本大震災での影響は、ほとんどなかったという報告を受けました。

## 埼玉県春日部市

### 東部地域振興ふるさと拠点施設

「ふれあいキューブ」

春日部市の東部地域振興ふれあい拠点施設「ふれあいキューブ」は、埼玉県東部地域の産業振興と地域住民の活動、交流を図る複合拠点として、平成23年10月にオープンした施設です。

大規模ですが、自然エネルギーの活

用など、参考となる点もありました。  
 建物の基本コンセプトは、「都市の森の創造」であり、「1 地域を育むまらづくりのシンボル」、「2 ふれあう緑と人のふれあい」、「3 環境を守る省CO2の最先端モデル」となっています。  
 大規模建物としては、全国的にも初めての鉄骨と木造のハイブリット構造で、1階から4階までは鉄骨、5階と6階は木造構造となっています。



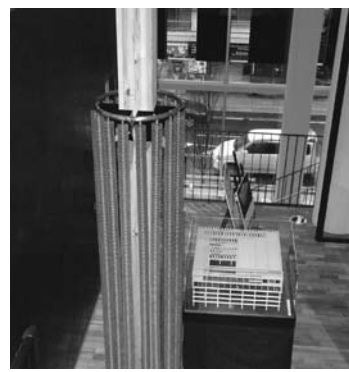
ふれあいキューブ【全景】

建物の概要は、敷地面積約5212㎡。建築面積約2848㎡。延床面積約10529㎡で、地上6階建ての建物で、内装は木がふんだんに使用されています。

多目的ホール、創業支援ルーム、商工団体事務室、パースポートセンター春日部支所、市民活動センター、保健センターなど、県関係施設と市関係施設が、階層別に配置されています。

木造建物は、防火上、建築面積に制限があり、柱や梁などは耐火材で覆い、床・壁などは耐火塗料を使用し、基準をクリアしています。

省CO2関係の取り組みでは、屋上に100kwの太陽光発電パネル、地下水太陽熱、地中熱を利用した空調で、地下水は、修景水路やトイレにも二次使用され、建物は中庭形式になっています。



ふれあいキューブ【自然エネルギーを活用した空調設備の一部】

自然採光、自然通風にも配慮され、CO2排出量が、標準的建物と比べ、45%排出量を削減できているとのこと。

建物の管理は、春日部市から指定を受けた指定管理者が行っています。

## 静岡県浜松市天竜区 天竜区役所庁舎

第2日目の移動は、一部開通した第2東名高速道路を通行しました。

この第2東名高速道路は、東海・東南海地震を想定し、現東名高速道路より内陸側に建設され、この地震の影響を受けにくいものとなっています。

サービスエリアは、緊急時の避難所さらにヘリポートにも対応できるように、スペースを広くとってあります。

3か所目の視察地である「浜松市天竜区役所庁舎」は、平成17年近隣の5町村が浜松市と合併して天竜区が誕生

し、建設された施設です。

この庁舎は、敷地面積約12145㎡。延床面積3615㎡。一部鉄筋コンクリートの木造で、平成23年に完成した庁舎のほか、消防署も併設されています。

当初計画では鉄筋コンクリート造2階建て計画でしたが、天竜区自治連合会から、「木造」という強い要望を受けて、木造主体の構造に変更になったという経過を知りました。

市の方針で、災害時の対策本部となる施設でもあり、基礎部分は免震構造となっています。



天竜区役所【全景】

庁舎建設の特徴として、地元の天竜杉95%と檜5%を使用した山と共生した特性を生かしました。

木造主体の建物で、自然エネルギーである太陽光や木質バイオマス・ペレットを活用し、環境負荷削減を図っています。

また天竜杉の無垢材を利用して組柱や組梁（集成材で無くボルトで固定）で、大規模建築が実現しました。



天竜区役所【事務室】

木造の柱壁は極力見えるようにし、梁、小屋組みは全部露出させ、木造を強調しており、床材は木材を圧縮させて強度を持たせたフローリング材が張られ、内壁には木材がふんだんに使用され、大変温かみのある施設となっています。

建物は、一般的な区役所機能のほか、災害対策室や保健福祉センターが併設された複合施設です。

免震機能は、地下2.5m程の建物基礎部分のコンクリート性の柱全部に、直径約0.6m、高さ約0.5mの円柱状の天然ゴム系積層ゴムアイソレイダー12基、弾性滑り支承15基、オイルダンパー4基が固定され、建物がゴムとベアリングの上に建築され、揺れを吸収し、最大60cm程の横揺れを和らげ



天竜区役所【待合室フロアー】

また補助熱源として、屋根面で温められた空気を3台のハンドリングユニットで地下ピットに送り、熱源とし



免震装置の一部

天竜区役所【地下の免震設備・空調室】

る構造になっています。この構造は、横揺れには大きな効果があるが、縦揺れには、まだ経験がないので判らないとの説明でした。また、空調設備では、暖房は木質ペレット焚きの吸収式冷水水器を使い、アースチューブとして地下60m位まで直径300mmのパイプが3か所埋設され、一年中、温度の安定した空気を、地下の免震ピット内の空気と合わせて、送風器で送り出す仕組みになっています。

でも使用しています。水道関係では、受水槽が合成樹脂でなく、天竜杉の産地でもあるので、杉板材を桶状に加工して使用していたことが印象に残りました。

建築費総額は、約10億9800万円。内訳は、起債（合併特別債）が約10億4300万円で、残りが一般財源で賄われています。年間の維持費は、平成24年度見込みで約600万円。その他、点検に要する設備費が数年ごとに必要との説明でした。

また、担当者からは、木材をふんだんに使用していることから、浜松市役所本庁舎に勤務していた時より、職員の心身に余裕ができ、健康的な影響を受ける施設であるとお話をお聞きしました。

### 静岡県浜松市春野町 春野協働センター

天竜区春野協働センターは、長野県飯田市から約6kmに位置する、山合いの杉林と竹林の中にある平坦地にある建物で、天竜区役所の出張所の機能を持った施設です。

地区内には歯科がなく、村営の歯科診療所が併設されています。この庁舎は、敷地面積約6142㎡、延床面積は本館棟約1563㎡、付属棟約140㎡、木造、一部鉄筋コンクリート造2階建てで、天竜区役所同様、免震構造になっています。

建設のコンプレックスは、「1 すべての人にやさしく使いやすい庁舎」、「2 市民協働を推進することを目的とした庁舎」、「3 春野の森林資源を十分活用した庁舎」、「4 防災拠点として防災時に対応できる庁舎」。

建築材料の木材は地元産で、選別から切り出まで、森林組合にお願いし、内部は天竜区役所同様、木の香り豊かな木造です。

また、構造等について住民に説明するにあたり、木造以外の意見は全くなかったということです。



春野協働センター【全景】

空調関係は、天竜区役所とほぼ同様であり、暖房は地元産材を加工したペレットストーブを使用しています。

建築費は、総合計で約6億1235万円。その内、県支出金500万円、地方債約1億3970万円、基金繰入金約4億6765万円で賄われています。

また、外壁が木造のため、年間維持費のほか、5年に1回程の間隔で、塗り替えが必要になります。

最後に、木島平村のような積雪寒冷地では、耐雪・耐震型でしかも地元産材を使った温もりのある木造公共施設の整備には、建築基準法や消防法などにいろいろな制約もあると思われますが、今後、施設整備にあたり、参考にしたいと思いい、研修の報告とさせていただきます。



春野協働センター【事務室及びフロアー】

前日に視察した天竜区役所は、この春野協働センターの良い面を参考に建築したので、施設内外の施設費が少額で管理もしやすいと伺いました。